

② 財産の管理について

土地建物等の維持管理について監査委員から指摘があつている。

③ 債権の状況

学資貸付金は平成27年度貸付金858万円、返済額は646万5千円で決算年度末現在高は5千273万5千円である。貸付金は100%徴収されている。

④ 基金の状況

基金（基準日平成28年3月31日）は8億3千293万7千円積立し、2千112万7千円取崩し、決算年度末の残高は79億6千375万8千円で平成26年度末に比べ8億1千181万7千円増加している。

⑤ 地方債の状況

平成27年度発行額は、14億6千503万5千円で償還金は9億8千487万9千円（繰上償還含む）である。決算年度末残高は、72億2千771万1千円で平成26年度末に比べ4億8千15万6千円増加している。

る。

⑥ 収入未済額の状況

収入未済額は、町税2千375万7千416円、養護老人ホーム入所負担金76万8千100円、保育料・幼稚園授業料等5万5千110円、教員住宅使用料11万2千500円、学校給食費48万1千510円の合計2千517万4千636円で平成26年度末より229万5千939円減少している。

特別会計

国民健康保険事業特別会計

平成27年度未加入世帯数は1千17世帯で総世帯数に占める割合は37.6%となつている。被保険者数は1千611人で総人口に占める割合は26.3%である。医療費一人当たりの平均額は35万4千845円で増加傾向にある。国保税に対する徴収率は92.48%でその内訳は現年課税分95.27%、滞納繰越分60.84%となつている。

直営診療施設勘定特別会計

受診者数は姫野々診療所で延べ1万2千967人、杉ノ川診療所で延べ7千138人、合計延べ2万105人と昨年度より少し増加している。

簡易水道事業特別会計

使用料について50万1千560円の未収金がある。

生活環境施設整備特別会計

本年度の浄化槽設置基数は26基で減少傾向にある。使用料で32万8千840円の未収金がある。

介護保険事業特別会計

保険料について270万6千210円の未収金がある。

後期高齢者医療特別会計

歳出の主な内訳は、総務費40万47円、後期高齢者医療広域連合納付金8千458円である。

財政健全化判断比率
基準値を下回り「健全」

平成27年度決算における財政健全化判断及び公営企業の経営健全化判断は、いずれも国の定めた健全化基準を大きく下回っており、赤字や資金不足は生じていない。

財政健全化判断

| 指標 | 健全化判断率 | 早期健全化基準 |
|----------|--------|---------|
| 実質赤字比率 | 赤字なし | 15.0% |
| 連結実質赤字比率 | 赤字なし | 20.0% |
| 実質公債費比率 | △4.2% | 25.0% |
| 将来負担比率 | 負担なし | 350.0% |

経営健全化判断

| 会計名 | 資金不足率 | 健全化基準 |
|----------|-------|-------|
| 簡易水道事業 | 不足なし | 20.0% |
| 生活環境施設整備 | 不足なし | 20.0% |

- 標準財政規模
補助金や借入金を除き、標準的に収入が見込まれる財源の規模。27年度は38億5千42万9千円。
- 実質赤字比率
普通会計の標準財政規模に対する赤字の割合
- 連結実質赤字比率
町の全ての会計の標準財政規模に対する赤字の割合
- 実質公債費比率
町の標準財政規模に占める借金返済額の割合
- 将来負担比率
町の標準財政規模に対する将来支払う負債の比率